

研究の背景的

トドマツコンテナ大苗の育苗技術の習得と植栽することによる効果を検証します。

コンテナ苗の大苗は生産不向きといわれております。大きくなることにより根鉢、苗木のバランス、重量、育苗期間が長くなる等、大苗生産としては大きな問題となります。また、造林植え付けでは取り扱いがしづらい、植え付けしづらい、小運搬しづらいと三つの「しづらい」が加わります。苗木生産者も植え付け実行者も何らかの方策を考えなければなりません。コンテナ大苗を植え付けることで「無地拵え、下刈りの省略」が出来れば大幅な経費削減になります。

研究の内容・成果

コンテナ苗育成には幾多かの問題点があります。

今回はあえて「トドマツコンテナ大苗の育成に取り組みました。移植する幼苗の生長、培地及び容器別生長、育成期間等を調べるために、前庭に育成棚をつくり試験を行いました。試験本数は1,000本以上となります。

それらの試験結果から移植用幼苗の育成を行いました。

最初は一年生幼苗を間引き本数調整と肥培管理を行い生長を促し、2年生幼苗で下枝のある根元径の太いものを育成しました。幼苗は太さ長さとも1号規格達しており、上長生長の泊まった8月にコンテナに移植を行いました。平成24年秋に移植、25年、26年育苗し9月に山出しを行いました。苗木は根元径・苗長を計測しナンバーテープをつけ、今後の調査をし易いよう野張を付けて山出しを行いました。コンテナ容器に苗長30cm上・40cm上・50cm上・60cm上・70cm上・80cm区分し、生長・活着等を調べ、どのぐらいの大苗が良いかを調べる事としました。コンテナ苗の育成期間は2生長期でした。

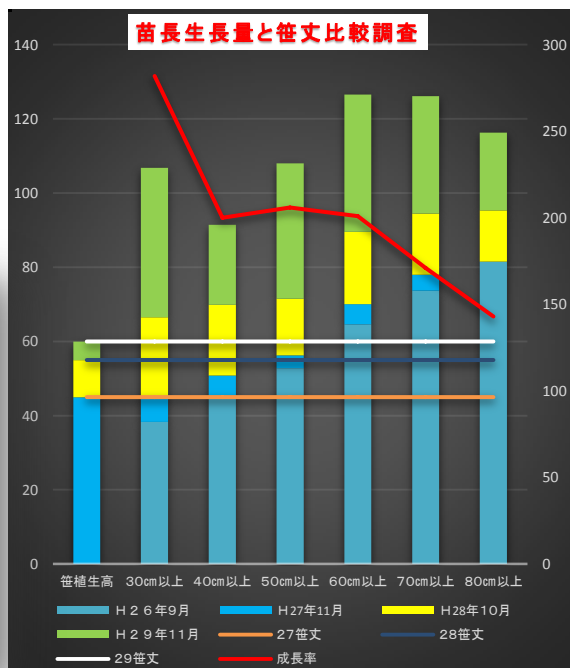
今後の展開

網走西部森林管理署で植栽したトドマツコンテナ大苗の活着率・苗長、根元径については29年までの3か年間行われました。当初心配した活着率、苗長・根元径生長も良好でした。3か年間の平均生長はほぼ1疋を越えています

笹の回復は1年目で45cmで2年目55cm、3年目60cmですが植栽木は既に笹丈を越えております。通常5年間程度下刈りを行います1年で下刈りを終了出来る事になります。伐採搬出植え付けで更新、保育完了となれば大幅な経費の削減を図ることが出来るのです。植付が増えても下刈りを増やさない、一つの考察と考えます。

コンテナ苗
育苗試験

トドマツコンテナ大苗



見事に育った植栽木